

防災・減災対策の充実・強化

◆ 目標①【洪水高潮防護達成人口率】

本県が管理している河川において、洪水や高潮により浸水被害が想定される区域内の人口に対する、改修が完了した区域内の人口の割合を「防護達成人口率」として評価指標としました。

$$\text{洪水高潮防護達成人口率} = \text{防護達成人口} / \text{浸水想定区域内人口}$$

※ 浸水想定区域は広島県が管理している河川を対象としています

平成 28（2016）年度から平成 32（2020）年度の 5 年間の投資により、洪水高潮防護達成人口率を現況値の 60.3%から 63.0%まで引き上げます。

当初現況値 (H28 当初)	最終目標値 (H32 末)
60.3%	63.0%

◆ 目標②【堤防耐震化防護達成人口率】

新規

本県が管理している河川堤防において、地震による液状化等により浸水被害が想定される区域の人口に対し、耐震補強が完成するなどし、防護される人口の割合を「河川堤防耐震化防護達成人口率」として評価指標としました。

$$\text{堤防耐震化防護達成人口率} = \text{耐震防護達成人口} / \text{浸水想定区域内人口}$$

※ 浸水想定区域は広島県が管理している河川を対象としています

平成 28（2016）年度から平成 32（2020）年度の 5 年間の投資により、堤防耐震化防護達成人口率を現況値の 40.6%から 42.7%まで引き上げます。

当初現況値 (H28 当初)	最終目標値 (H32 末)
40.6%	42.7%

自助・共助・公助による地域防災力の向上

◆ 目標③【想定最大規模降雨に対する洪水浸水想定区域図の策定率】

新規

多発する浸水被害への対応を図るため、新たに着手する「想定し得る最大規模の降雨」を前提とした洪水浸水想定区域図の策定率を評価指標としました。

想定最大規模降雨に対する洪水浸水想定区域図の策定率＝ 策定・公表する区間 / 策定・公表が必要な全区間

策定率の算定にあたっては、対象の 23 水系 63 河川（67 区間）について 10 年間で策定するものとし、5 年目では 65.7%に相当する 41 河川（44 区間）の区間を策定することを目標とします。

当初現況値 (H28 当初)	最終目標値 (H32 末)
0%	65.7%

◆ 目標④【「河川出前講座」等の実施数】

新規

災害から命を守るために必要な行動の習得を通じ、災害時の「死者ゼロ」を目指すとともに、未来の防災リーダーの育成を目標とするために開催する「河川出前講座」の数を評価指標としました。

「河川出前講座」等の実施数

実施数については、平成 28（2016）年度から平成 32（2020）年度の 5 年間に県内の小中学校を対象に計画的に実施します。

当初現況値 (H28 当初)	最終目標値 (H32 末)
—	45 回